

<中学校>

- ・食事や起床・就寝時間など、基本的な生活習慣が着実に定着しつつあります。
- ・テレビ・DVDの視聴が長時間に及ぶ傾向にありますが、ゲームをする時間やスマホなどの通信機器の使用時間は、縮減傾向にあります。
- ・家庭学習では、ほとんどの生徒が宿題にしっかり取り組んでいます。しかし、授業の復習や予習に取り組む生徒の割合が、例年に比べ少なくなっています。
- ・「自分にはよいところがある」という自己肯定感が高く、困難なことに失敗を恐れないで挑戦する気持ちも強く持っています。半面、将来の夢や目標を持っている生徒の割合が全道・全国平均より少なくなっています。

<具体的な方策>

- ◇宿題や課題を与えるだけでなく、自学ノートを出させたり、テスト前に学習計画表を作成させたりするなど、家庭学習の定着を目指します。また、家庭学習の時間を確保できるよう、家庭と連携した取り組みに努めます。
- ◇授業や学級活動、道徳、総合的な学習の時間、部活動などを通して、自分の生き方や将来について考えられるように指導します。また、生徒の自己肯定感を一層高め、自信をもって物事に取り組める生徒を育てます。

● 児童生徒をより伸ばすための学校の取組（改善策）

<小学校>

【国語】

- ・文章を読み取るための視点をつかませ、根拠を明確に自分の考えを表現する学習活動の機会を増やしていきます。
- ・漢字や語句を正しく使って文章を書くことや表現方法や語彙の広がり意識した学習活動に取り組みます。
- ・テストで間違えた問題の解き直しにより、理解を図ります。
- ・読書活動の習慣化を目指し、継続して朝読書や読書の仕方の学習に取り組みます。

【算数】

- ・学習内容の要点や数学的な考え方・見方の復習によって、計算力や答えの求め方等の基礎的・基本的な事項を確実に習得させます。
- ・操作活動※によって段階的に考える場面を多く取り入れることによって、筋道を立てて説明する力や解決する力を身に付けさせます。

※実際に物を用いて数量や形を考える具体的操作と、数量や形を頭の中でイメージしながら考える念頭操作がある。

【理科】

- ・ICT機器等を効果的に活用し、自分の予想を基に実験・観察を行って考える力を育てます。

<中学校>

【国 語】

- ・辞書や資料を使って漢字や語句を調べたり、文脈や書く目的にそった言葉を探す機会を意図的に設けたりすることにより、言葉への関心を高め、言語感覚を豊かにする指導を工夫します。
- ・様々な形態の文章に触れさせ、日常生活に活用できる文章の書き方を身に付けさせます。
- ・内容や構成などに注意しながら、自分の考えの根拠を明確にして文章を書けるよう指導します。
- ・個に応じた指導方法や手立てを工夫した授業づくりに努めます。

【数 学】

- ・基本的な計算問題を数多く解くなど、基礎基本の確実な定着に取り組めます。
- ・獲得した基本的な事柄を活用し、発展的な問題を解決させたりして、理論立てて解答できるように指導します。
- ・習熟度別指導や個別指導により、つまずきのある生徒への指導を行います。

【理 科】

- ・観察や実験を通して、仮説・予想・考察について理由を述べながら記述し、説明できる力を身に付けさせます。

豊頃町の児童生徒の学習・生活の充実のために

◎学校では、学習規律の定着と同時に、基礎的・基本的な学習内容の確実な習得に努めるとともに、これを基盤とした体験型・課題解決型の学習活動を多く取り入れるなどし、子ども自らが主体的に学ぼうとする学習力を育みます。このためには、わかりやすい授業づくり、宿題の質を高めるなど、子ども達が集中して学ぶことができるよう教育環境を整えます。合わせて、学習と余暇とを適切に配した生活習慣づくりを家庭や地域と連携して推進していきます。

◎家庭では、学校と連携・協力して、子どもの生活習慣等（「早寝・早起き・朝ご飯」、手伝い、テレビやゲームをする時間）を見直すとともに、家庭学習の習慣化（まずは授業の復習をその日のうちに）に取り組ましましょう。（参考「家庭学習の手引き」等）

◎地域では、学校行事や四季折々の町内行事、日常の活動場面などにおいて、子ども達への温かい励ましや教育活動へのご協力の程、お願いいたします。

～本町教育の更なる発展のために、町民一体となった教育環境づくりに取り組みましょう！～

平成27年度
全国学力・学習状況調査の
結果の分析と考察

豊頃町の児童・生徒の 学力や生活習慣は？

本年4月に小学校6年生と中学校3年生を対象に、例年の国語・算数（数学）に理科を加えて、全国学力・学習状況調査が実施され、分析結果が8月末に示されました。この結果を基に、教育委員会・教育研究所では、町内各校の学力のより確実な定着に向けた取組を尊重しつつ、豊頃町全体の教育環境づくりの観点から、子の学びを育む学校、家庭、地域の更なる連携に期待をし、整理をしました。

● 豊頃の子どもの学力等の傾向

小学校	3教科ともに正答率が全国平均を上回る結果となりました。どの領域においても着実に学力の定着が図られてきています。特徴として国語では「読むこと」の領域、算数では「数量関係」の領域、理科では「物質」の領域が、特にしっかりと定着してきました。	国語の授業が好き 国語の授業が好き % ■ 小学校 ■ 中学校 63 76 62 64 61 61 豊頃町 全道 全国
中学校	確実に学力が定着し、3教科ともに正答率が全国平均を上回る結果となりました。国語では「読むこと」の領域、数学では「関数」の領域、理科では「生物的分野」の領域が、特にしっかりと定着してきました。	
全体	「国語の勉強が好き」と答える児童・生徒の割合が全道・全国平均を上回り、他教科も含め学習への意欲が高まってきています。家庭学習の定着を通し、学校と家庭とが連携した取り組みが、確実に実を結び始めています。	

<小学校>

国語 A（知識）、国語 B（活用）

- ・国語 A では、「話すこと・聞くこと」の領域や漢字の読み書きの力が付いてきました。「読むこと」の領域の定着が、学習内容の定着に繋がっていきます。
- ・国語 B では「書くこと」の領域での力が付いてきました。国語 A 同様、「読むこと」の領域でも定着しつつあります。

算数 A（知識）、算数 B（活用）

- ・「図形」の領域の理解に改善が見られました。基礎的な計算技能が定着すると、更に良くなります。
- ・「数学的な考え方」を活用して、説明したりすることに改善が見られました。「数量や図形」の技能を高めることが、より大切です。

理科（知識・活用）

- ・「エネルギー」の領域の理解が高くなっています。知識・理解したことを基に分析したり、自分の考えを記述することができています。

児童・生徒の学力の傾向
教科（国語、算数・数学、理科）ごとの傾向

<中学校>

国語 A（知識）国語 B（活用）

- ・「読むこと」の力が付いたことで、表現に応じて自分の考えをもち、内容を読み取ることができるようになりました。
- ・「言語についての知識・理解・技能」の領域で、漢字の読み書きや文脈での適切な言葉の使い方の定着に課題が残りました。

数学 A（知識）数学 B（活用）

- ・「数量や図形などについての知識・理解」は、しっかりと定着しています。
- ・関数の意味を理解し、与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができます。
- ・資料の傾向を的確に捉え、事柄の特徴を数学的に説明することができます。

理科（知識・活用）

- ・「生物的分野」の領域の理解が高くなっています。自分のもっている知識や理解したことを基に分析したり、自分の考えを記述したりすることができています。

● 児童生徒の学習習慣や生活習慣の傾向

～児童生徒質問紙調査から～

<小学校>

- ・生活面では、基本的な生活リズム（「早寝・早起き・朝ご飯」）に不規則な面が見られました。
- ・家庭学習の時間は、個々の取組方に違いはありますが、全体的には、着実に家庭生活の中に位置づけられる傾向にあります。
- ・テレビ・DVD等の視聴時間は、未だ長時間に及んでいます。ゲームの時間は、縮減傾向にあります。
- ・自分を認め自信を持つことに、まだ十分でないところが見られますが、学級の人々と協力して、何かをやり遂げようとする気持ちを強くもっています。

<具体的な方策>

- ◇学校では、「分かる・楽しい授業づくり」に努め、子どもの学ぶ意欲を高め、学ぶ楽しさを実感させていきます。また、家庭とも連携して、学習の仕方や学習習慣を身に付けさせるよう取り組みます。

- ◇家庭では、家庭生活に「家庭学習と読書」を位置づけ、テレビやゲームをする時間と学習に取り組む時間とのバランスを見直し、基本的な生活習慣が定着するよう指導願います。